



みさかコミュニティセンター前のモニタリングポストで放射線量を確認する振津かつみさん（福島県白河市にて／2013年1月26日）

次世代へ残してしまった大きな課題

氾濫する情報、動かぬ体制の下、人々が胸を痛め、頭を悩ませ続けなければいけない福島の現実は、事故から約2年が経った今も、残念ながら変わらないままです。

そんな中、白河市の「みさか」地区で振津かつみ医師による医療相談会開催が実現しました。昨年春に行った「ひょうごちょっとのぞいてみようツアー」参加者の声を受けたものとしては、いわき市遠野町に続くものです。相談会の前日には町内会の役員の方々から、町の現状についてゆっくりとお話を伺うこともできました。

この地区は、福島県の南部に位置するニュータウンで、比較的若い世代の方々が地域の活動に携わっているという印象を受けました。場所によっては福島市内と同程度の、原発からの距離からは想定しえない高い数値が見られるという事実も、住民の方々の地道な測定によって明

らかになったのだそうです（会場のみさかコミュニティセンター近辺 0.4～0.7 マイクロシーベルト/h＊白河市調べ2012年8月）。行政からの支援が思うようには受けられなかったため、町内会が主体となって、公園、小学校の校庭、通学路などの除染作業を続けておられるとのお話を伺い、歯痒い思いでいっぱいになりました。

相談会参加者は20名弱。参加者からは、「相手が大きすぎて、戦う気力を失ってしまう」との声も聞かれました。その中で振津さんの話は、「日本は、広島や長崎での被ばく経験があるにもかかわらず、世界中に放射能をばらまくという大変な事態を起こしてしまった」で始まり、「次世代に残した課題」という認識を持って、これは社会全体で取り組むべき問題です」で締めくくられました。一人でも多くの方にこの声を届け、思いを共有し、共に声を上げていくことが必要なのだ、と切に感じます。

（神戸YWCA 被災者支援プロジェクト：江口清子）

女性がつながることで 福島の分断を解き放てるか？

～「ウィメンズスペースふくしま」の皆さん
とのランチ交流会 in 福島～



1月28日(月)、YWCAの活動拠点「カーロふくしま」(福島市内)において、郡山で活動されているNPO法人「ウィメンズスペースふくしま」の皆さんとのランチ交流会が開かれ、参加しました。

ウィメンズスペースふくしまは、「女性の自立を応援する会」として2007年に設立、震災後は避難所での女性支援などを行う中で、2012年11月にNPO法人格を取得し、現在は、子育て中の女性を対象に「ママ友サロン」などを開催しています。

「ママ友サロン」は、お母さんたちが一時的に子どもから離れ、おしゃべりし、リラックスできる場として、一か月に一度開催。キャンセル待ちになるほど盛況だそうです。

何度かサロンを開く中で、参加者から「生活の細々したことや、何を食べるかなどは、全て自分が決めないといけないと思っていた。でも私以外に子どもに責任を持っている人(夫)がいるとわかった」「食べさせてもらっているんだから、夫の言う事をきかないといけないと思っていた」「自分が疲れているときは、料理を作らなくてもいい。できあいの物でもいいと思えるようになった」「こどもは自分が育てないといけないと思っていたけど、時には人にあずけてもいいんですね」などの声が次々と出てくるようになったそうです。

1月、白河市みさかで行われた医療相談会(表紙記事参考)の実行委員の一人であるお母さんは「医療相談会にあなたも来ない?と誘っても、小さ

なこどものいるお母さんほど、“まだそんなこと(放射能の心配)を言っているの?”と取り合ってくれなかった」とおっしゃっていました。日々、子育てに奔走する中で、「放射能」のことを聞いたからといって、どうすることもできない。ならば聞きたくない…と母親たちが思ったとしても不思議ではありません。でも、もしそこで夫が話を聞いてくれたなら?一緒に考えてくれたならどうだろう…。郡山のサロンでの声のように、福島が深く分断され続けている原因のひとつは、この日本社会が女性に生きづらさを強いている事と無関係ではないと思われました。

福島の分断をいかに解き放っていくか。YWCAだからこそできることがあるのではないかと思った交流会でした。(被災者支援:西本)



福島YWCAをはじめ、様々な活動団体の女性たちが集まり、たっぷり3時間、交流しました。

今年もやります!

ひょうご ちょっとのぞいてみようツアー!

～ボランティアとして、また募金で、応援してください～

いまま放射能被災下において、日々不安を抱え、時に孤立の中で悩むご家族に、この春もひととき神戸にいらしていただきます!こどもたちが楽しく外遊びをする合間に、親たちは県外避難者の方々との交流、医療相談会などに参加します。これらプログラムを通して、県外から福島を見つめ、参加者同士がつながり、次の一歩につながる一助となるならと願っています。

ぜひボランティアとして、また募金で、ツアーを応援いただけませんか。お問い合わせは被災者支援(担当:西本)までどうぞ!

3月31日(日)

～4月5日(金) *予定